



高松真衣子 さん

J-SHINE上級指導者資格者  
大阪市立小学校 英語活動支援者(8年目)  
英語指導者の会FUN所属  
伊丹市立小学校 英語指導補助員(6年目)

## ■ J-SHINE資格、上級指導者資格取得のきっかけ

2008年夏、mpi松香フォニックスで小学校英語指導者認定資格を取得しました。当時、娘が小学校2年生で『今後の小学校英語』に興味があり、思い切ってセミナー受講を決めました。暑い夏が来るたびに、セミがジージー鳴く中、朝早くから大阪へ1週間ほど毎日通ったことを思い出します。

その時の講師との出会いが、小学校へ関わるチャンスとなりました。実際に指導されている現場へ何度も伺い、授業を見学し、教室の後ろで子ども達のサポートを自然とするようになり、必要に応じて前でデモをすることに…そして、翌年2学期から学期3回、娘と同じ3年生を指導する経験を持ちました。その後も娘と同じ学年の児童と接しながら小学校現場で指導経験を積んでいくことになりました。子ども達のキラキラした目とまっすぐな態度に触れ、「これがやりたかった!」と、気がきました。現在も、『英語指導者の会FUN』に所属して、大阪市内の小学校で支援をしています。

2011年には、伊丹市立の小学校に英語指導補助員として市教委に採用され、担任の先生とTTで5、6年生の授業を各35時間ずつ担当することになりました。今年2017年はチャレンジングな春を迎え、5年間勤務した小学校から異動したところです。

上級指導者資格は、4年目の更新時にすでに必要時間数に達していたため、学校長の推薦状と共に申請手続きをして、資格を取得しました。



## ■ 現在の活動状況

【大阪市淀川区小学校1校4年生年間9時間(学期3時間)】

その学校独自のプランがあり、1年生から6年生まで担任の先生とTTで授業を行います。5・6年生には隔週でALTも入ります。各学年、時間数が異なりますが、それぞれの学年にJTEが支援に入り、6カ年の指導計画に沿って進めています。児童は少しずつ積み上げていけるので負担は少ないです。1年生から指導できることは魅力的で、児童は英語に対してのハードルを感じることなく、興味を持って英語活動に取り組んでいることが印象的です。今年も中学年の4年生を担当し、元気いっぱい活動しています。担任の先生方との打ち合わせは、時間的に非常に厳しいですが、どのJTEと組んでも均一な授業ができるよう『英語指導者の会FUN』の代表が、先生方に研修を行っています。私は、わずかな時間であっても、授業後に必ず児童の様子を含めて、担任の先生とお互いフィードバックをし合って積極的にコミュニケーションを取るよう心がけています。また『英語指導者の会FUN』では、定期的にミーティングを行い、JTE仲間で研鑽しあって授業の質を確保しています。

【伊丹市立小学校1校5・6年生年間35時間】

先に触れましたが、この春異動になり、新しい学校で、先生方との関係、児童との関係作りをゼロからスタートしました。5年生は新しい教科に対して不安もありますが、楽しみにしている気持ちの方が大きく、元気に英語活動をスタートしました。しかしながら、5・6年生共に新しい者に対しての警戒心から、なかなか心を開かない児童もおり、毎時間、神経が張りつめていました。初めは授業中、私の声にわざと声をかぶせ、決して前を向かなかった児童が、徐々に前を向き、私と目を合わせるようになり、少しずつ心が通い始めたのが1学期です。

校長先生から5年生の印象についてコメントをいただいたので、ご紹介します。

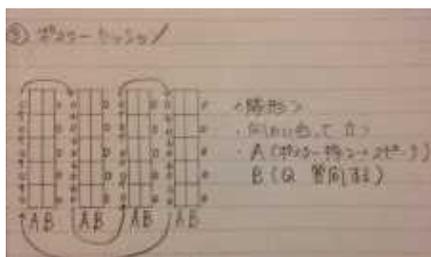
「私が1学期の一番の印象をあげるとすれば、自然学校の子どもの様子ですね。2日目に雨が降って、楽しみにしていた「アマゴつかみ」が中止になったにもかかわらず、1階のホールから外を眺め、集まった子どもたちが、誰彼ともなく、

Rainy. It's rainy. It's rainy today. パンパン！（手拍子）

Cloudy. It's cloudy. It's cloudy today. パンパン！（手拍子）

とリズムよく手拍子を始め、その輪がどんどん広がっていったことです。私が、「それ何？」と聞くと、満面の笑みで、「英語でやってみよう！」と教えてくれました。まさに、これが主体的な学習だなあと思える瞬間でした」

5年生以上に英語活動に抵抗感を持ってスタートした6年生の1学期最終授業について触れたいと思います。自分の誕生日についての『ポスターセッション』をしました。本来ならば、クラス全体を2重円にして、外円はポスター（写真参照）を持って自分について発表する側、内円は外円の人に対して質問する側です。しかし、普段と違う隊形になることに不安要素が見受けられるため、担任団と相談の上、写真のように机を向い合せて、ポジショニングを明確にしました。向かって右側をパートA（ポスターを持つ側）、左をパートBにします。担任の先生はストップウォッチと笛を持ってスタンバイします。



- ① ピッ！笛の合図。
- ② B から話しかける。A は B が話すまでしゃべらない。
- ③ B : Hi!  
A : Hi!  
B : My name is ○○. What's your name?  
(↑ 自分から名乗る。)  
A : My name is △△.  
B : When is your birthday?  
A : My birthday is 月日 .  
B : That's great! (←コメントの幅はこれから広げたい。)  
A : Thank you. Bye!  
B : Bye!

④ 20～15秒でピッ！笛が鳴り、その相手との会話終了合図。

⑤ A がひとつ隣へ移動する。繰り返し。

クラス半分の人数とこのやりとりをします。今度はABのパートを入れ替えてやり取りをします。終わった後の児童の達成感と言ったら!! 声は自然と大きくなり、なんとか伝えようとジェスチャーも交えて笑顔になってきます。スピードも上がってきます。誰とでも積極的にコミュニケーションを楽しんでいる姿が印象的で、担任の先生と私は見守るだけで、彼らの持つ力が最大限に活かされた活動です。その後、数名が前に出てきて、クラス全体の前で堂々とスピーチができます。この『ポスターセッション』の活動は数年前から6年生で単元ごとに取り入れ、3学期の最後には、このポスターをつなげてロングスピーチにします。「英語が話せるようになった。」という感想をよく聞きます。自分のことが発信できる喜び、それは、彼らの自信になっています。『ポスターセッション』に至るまで練習や担任の先生のサポートや理解も必要ですが、非常にシンプルで楽しい活動です。

#### ■ 今後の展望、課題、目標

伊丹市立の小学校で、1学期最終授業前に児童にアンケートをとりました。「とても楽しかった・楽しかった・あまり楽しなかった・つまらなかった」の4段階です。『とても楽しかった・楽しかった』と答えた6年生は87%、5年生は95%でした。異動してきた私にとっては、ホッとしたところも正直あります。しかし、楽しいと感じることが出来なかった児童がいます。初めて『英語』に触れた児童もたくさんいたかもしれません。とても責任ある仕事だと感じています。民間の英会話スクールや塾とは違い、公立の小学校で、全ての児童が平等に学ぶ時間です。1時間1時間を大切に、そして、彼らに寄り添うことができる指導者でありたいと思います。1クラス30人以上という大きな集団です。このクラスサイズを生かし、友達同士で学び合い、コミュニケーションを楽しみ、児童と担任の先生が生き生き活動できる立体的な授業を展開していくことを常に念頭を置き、サポートしていきたいです。2学期からはALTが5、6年生に9時間ずつ入る予定です。学校内での先生方とのコミュニケーションがより重要になってくると思います。学校全体が「今日は英語だね、英語っておもしろい！」という雰囲気が増して行けるよう、日々、精進していきます。2020年度に向けて、大きな変化がやってきます。柔軟に対応できる力もつけたいと思います。

